



鹿児島県護憲平和 フォーラム情報

NO—135 2022.7.1

発行：鹿児島県護憲平和フォーラム E-mail:kenheiwa@bronze.ocn.ne.jp
連絡先：鹿児島市鴨池新町5-7 TEL 099-252-8585 FAX099-258-4560



「脅威論」の脅威

鹿児島県護憲平和フォーラム代表 平井 一臣

2月24日、ロシアのウクライナ侵攻は世界に衝撃を与えた。戦争は始める以上に終わらせるのが難しいと言われるが、現在も（6月後半）もなお戦闘は続いている。今回の戦争もなかなか出口が見出せそうにない。そして、戦争が長引けば長引くほど犠牲者の数は増え続ける。国家と国家の間に信頼が失われ、相互の国益をぶつけ合うのが戦争だ。さらに今日の情報化社会を背景にして両国が様々な情報戦を展開しており、何がどこまで真実なのか、よく分からぬ部分も多々ある。しかし、毎日確実に誰かが殺され、家族を失い、家を失い、故郷を失っている人がいる。まずは、このシンプルな事実を直視することにしたい。

今回の戦争をきっかけに政治家のなかには「核共有論」を唱えたり、防衛費の大幅アップを主張したりと意気盛んである。中国や北朝鮮の脅威に加え、ロシアの脅威も存在する。日本の周りは脅威だらけだ。憲法の平和主義に固執していたら、日本もいつ侵略されるか分からぬ。このような主張に接して私が思い出すのは、1980年代前半に日本社会を席巻したソ連脅威論である。

あの時もきっかけはソ連の軍事侵攻だった。1979年の年末、ソ連がアフガニスタンを侵攻し、この時も世界に衝撃を与えた。米ソ間に対立が走り、アメリカのレーガン

政権は反共主義に基づく強硬姿勢をとり、「新冷戦」と呼ばれるようになった。日本では中曾根首相が「不沈空母」発言をするなど、アメリカの対ソ強硬路線に同調して危機感を煽った。この頃、本屋さんに並ぶ雑誌を賑わせ、テレビでも報じられたのが「ソ連脅威論」だった。ソ連はシベリア鉄道を使って着々と極東方面の軍備を強化している。日本に侵攻する日もそう遠くはないのだ。そんな論調の記事やニュースが飛び交った。こうして「脅威論」が人びとの不安感、危機感を刺激し、脅威への対処、すなわち防衛力の増強につながっていった。

しかし、今から振り返ると、当時のソ連に日本を侵攻する力も余裕もなかったというのが実情だった。やがてゴルバチョフが登場し、疲弊したソ連社会の立て直しに挑戦し、それは対外政策の負担軽減を意図した対米対立の緩和へとつながっていった。

「脅威論」の蔓延は、社会を冷静な判断から遠ざけています。「脅威論」自体が私たちにとっての脅威なのだ。「脅威論」に振り回されないためにも、日々戦地において多くの悲しみと苦しみのなかにある一人一人の生身の人間に対する想像力を失わないことが重要なのではないだろうか。

馬毛島基地整備計画 葉山港海底工事の 不許可を知事に要請

「鹿児島に米軍はいらない県民の会」は6月10日、米軍機訓練移転と自衛隊基地整備計画を巡り、防衛省が鹿児島県西之表市馬毛島で予定する葉山港の海底を掘り下げるしゅんせつ工事について、許可を出さないよう塩田康一知事宛てに別添のとおり申し入れを行いました。

防衛省は6月3日付で鹿児島県に工事の許可を申請しました。県は2週間程度で判断を示す見通しと言わわれていることから県知事に対して急きよ行いました。

申し入れで平井一臣会長らは「県の将来に関わる重大な問題。手続き上の不備だけでなく、主体的に意思表示すべきだ」と要請し、回答も求めました。「そもそも何故防衛省が基地建設と関係の無い工事の許可申請を行うのか」「漁船の安全確保だとするなら、何故大幅なしゅんせつ工事が必要なのか」「基地建設に関連した申請であることは明らかではないか」と質しましたが、



応対した河川課長補佐らは「基地計画とは別と聞いている。知事に伝える」などと不誠実な回答を繰り返すばかりでした。

葉山港の工事は、港内から300メートル沖合まで幅34メートルを水深3メートルになるよう掘り下げる。許可が下りれば同省は8月15日以後に着工し、9カ月程度で完了したい方針としています。

今回の許可申請は、物資運搬にも使うが「計画とは別」としており、環境影響評価(アセスメント)対象外の管理用道路の一環として進めているものとされ、種子島漁協の安全性確保の要望に協力する形で同省が市に申請したとされていますが基地建設につながる一連の動きであることは必至です。

「県民の会」では、知事申入れに先立ち、県庁にて記者会見を行いました。

写真は 2022.6.10. 馬毛島葉山港浚渫工事 知事申し入れ

2022年6月10日

鹿児島県知事

塩田 康一様

鹿児島に米軍はいらない県民の会
会長 平井 一臣

馬毛島基地建設に伴う葉山港の浚渫工事の

許可申請を許可しない申入れ

貴職の県民の「安心・安心」な暮らしを守るために、昼夜を問わずご尽力されていることに対して、心から敬意を表します。

さて、防衛省は6月3日に、馬毛島基地建設に関わる葉山港の浚渫工事の許可申請を県(熊毛支庁)に提出しました。葉山港は馬毛島の東岸に面し、馬毛島に唯一上陸できる港であり、防衛省が基地関連工事の物資運搬港と位置付けていることから、馬毛島への米軍施設に反対する市民・団体連絡会や熊毛ブロック護憲平和フォーラムなどは、基地工事に直結する問題として、この浚渫工事に強く反対しています。一方西之表市は、当初葉山港のこれまでの利用形態から「浚渫工事は、不要」としてきましたが、3月29日付で「工事に、異存はない」と回答しました。反対する市民が八板市長に慎重な対応を求めていましたが、西之表漁協が市を通じて防衛省に要望した内容を基に「漁港管理者として、漁業者らの安全確保の観点で判断した」と、市は説明しています。

防衛省と西之表市の協議書では、浚渫範囲は約1万2,500平方メートルで、港内から港外にかけてL字形に平均干潮時の水深が3メートルになるよう掘り下げ、取り除いた土砂の量は最大1万9,300立方メートルで、桜島東部の処分場に運び、工事は8月15日から着手する計画になっています。西之表市が同意したのは、漁港区域に当たる約7,500平方メートルで、残りの区域外の約5,000平方メートルについては、県の許可が必要として6月3日に県(熊毛支庁)に許可申請が提出されました。

今回の浚渫工事は、環境アセスが終了しておらず、防衛省の説明に住民が納得していない現状のなかで行われようとしています。私たちは、馬毛島基地建設そのものに反対の立場ですが、浚渫工事は基地建設を進めるうえでの手続きの順守さえ守らず、住民の合意を著しく欠いたまま基地建設に進めるものと言わざるを得ません。

塩田知事におかれましては、県民の声に耳を傾け、将来にわたって禍根を残す馬毛島基地建設に反対していただきますよう、下記のとおり申し入れます。

記

- 1、熊毛の自然や環境を破壊し、海洋汚染を招く浚渫工事の土石採取や岩礁破碎を許可しないでください。

第9回辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会（土砂全協）総会報告

辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会（以降、土砂全協）は、瀬戸内海環境保全特別措置法の改正や「海岸・干潟生物調査」など、瀬戸内海の環境を守るために活動する市民団体で、岡山県に事務所を置く「環瀬戸内海会議」が、2013年3月の琉球新報報道で、辺野古基地建設に使われる埋め立て用土砂が西日本各地から採取されることから、総会で「辺野古土砂搬出問題」を提起し、反対していく事を確認して、2015年5月に奄美市で、奄美会議を含めた7団体が「土砂全協」を発足させました。活動は、沖縄県、防衛省、環境省に対し、辺野古埋め立て用土砂採取に反対であるという意見の申し入れや「辺野古埋め立て土砂搬出撤回」を求める署名活動を行っています。その後、土砂の搬出元となる地域で新たに団体が設立されるなどして、2016年4月には沖縄県も含む8県10カ所の土砂搬出地や埋め立てに必要なケーソン製造地が連携し、2022年現在は13都県の①環瀬戸内海会議（岡山県）②辺野古のケーソンをつくらせない三重県民の会（三重県）③海の生き物を守る会（京都府）④播磨灘を守る会（兵庫県）⑤小豆島環境と健康を考える会（香川県）⑥辺野古に基地をつくらせない香川の会（香川県）⑦広島と沖縄をむすぶドウシグワー（広島県）⑧「辺野古に土砂を送らせない！」山口の声（山口県）⑨辺野古土砂ストップ北九州（福岡県）⑩五島列島自然と文化の会（長崎県）⑪辺野古埋立て土砂搬出反対熊本県連絡協議会（熊本県）⑫辺野古土砂搬出反対うきの会（熊本県）⑬南大隅町を愛する会（鹿児島県）⑭手広海岸を守る会（鹿児島県）⑮奄美市住用町の市集落の環境対策委員会（鹿児島県）⑯自然と文化を守る奄美会議（鹿児島県）⑰本部町島ぐるみ会議（沖縄県）⑱島ぐるみ会議名護（沖縄県）⑲辺野古土砂搬出反対！首都圏グループなどの団体が加盟しています。この土砂全協に、鹿児島に米軍はいらない県民の会（以降、県民の会）は、オブ参加で連携してきました。土砂全協は第9回の総会を、馬毛島基地建設問題で揺れている鹿児島県で開催する旨を県民の会に打診、奄美ブロックも参加していることから、5月28日に開催する方向で準備を進めてきました。しかし、鹿児島県内の新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、対面では無理があるとして中止し、オンラインでの開催となりました。総会は2021年度の活動報告並びに決算報告、会計監査報告が行われたあと、2022年度予算（案）並びに2022年度活動方針（案）などが提案され、



参加者全員の承認を受け、終了しました。また、今回は、総会に加え、県内の採石場視察や「馬毛島上陸」を計画していたことから参加者の落胆は、大きいものでした。馬毛島上陸をあきらめきれない参加者からのリクエストを受け、7月 22 日から 2 泊 3 日の日程で「馬毛島上陸」を予定しています。参加者に馬毛島を「見て・聞いて・学んで」全国に、発信していただきたいと願っています。

南薩プロック護憲平和フォーラムの報告

報告事務局次長 今村

南薩プロックは 12 単組で構成され、活動エリアは南さつま市・南九州市・枕崎市・指宿市です。

この 1 年間もでしたが、コロナ感染が拡大し、いくつかの取り組みを中止せざるを得ませんでした。

【この 1 年間の主な活動】

2021 年

・6 月 9 日 九電・加世田営業所へ「川内原発 20 年延長のための特別点検中止を申し入れ」しました。申し入れへの回答は 2 ヶ月後にありましたが、「お答えできません」ということでした。

この件では、プロック内 4 市議会(8/10 南九州市議会、8/10 南さつま市議会、8/12 枕崎市議会、8/13 指宿市議会)へ川内原発延長問題に関する陳情書を提出しましたが、9 月議会および 12 月議会で不採択&廃案となりました。

・7 月 20 日 第 37 回反核・平和の火リレーは自治労の青年・女性を中心に取り組まれました。また首長への要請書では「核兵器禁止条約」への批准を働きかけるなど 9 項目を内容とするものでした。7/20 指宿市、7/21 南九州市、7/26 枕崎市、7/27 南さつま市の日程でリレーは続けられました。

・8 月 5 日 平和学習会として、枕崎市職労の青年・女性の皆さんへ「原水禁運動・馬毛島基地建設問題&南西諸島の軍事基地化そして川内原発延長問題」を中心に学習会を開催。提起は事務局次長の今村が行いました。

・8 月 30 日 民主教育を守る指宿市民会議は評議員会・役員会を開催する中で、放課後「学童保育」問題への対応が課題となり、行政への対応を要請することとなり、8/30 指宿市長へ要請を行いました。

対応の中で(前)豊留市長の発言は「前向きな」ものとして受け止めましたが、その後の道筋が見えず。

2022年

- ・4月27日 テーマ「馬毛島基地建設の現状と課題」として、現地で奮闘されている迫川 浩英さん(馬毛島への米軍施設に反対する市民・団体連絡会/事務局次長)を向かえて、指宿市民会館で労組員・市民47人が参加する中で講演をいただきました。(この内容は県護憲平和フォーラム情報 第132号に掲載。ご覧ください。)
※残念なのはこの2年間、各組織の大変楽しみにされている単産対抗ボーリング交流を中心止せざるを得なかったことです。コロナ感染拡大の終息を見据えつつ、今年は何としても開催したいものだと役員・幹事願っているところです。



非核平和行進 自治体要請行動

7月12日鹿児島地区を皮切りに、県内各地区で実施へ

戦後77年、今だに核兵器に依存し続ける状況のもと、核兵器禁止条約の国連採択を含め、国際及び国内の「核兵器禁止」の声を強めていかなければなりません。

県原水禁と県護憲フォーラムは、7月12日から鹿児島地区を皮切りに、県内各自治体への「非核平和の要請行動」(含む街頭宣伝活動)を進めて行くこととします。

沖縄平和行進(2022年5月13日～15日)から引き継いだタスキをつないで、8月7日～9日の原水禁世界大会(長崎大会)に集約していくこととします。

鹿児島県護憲平和フォーラム情報 第 135 号 2022 年 7 月 1 日発行 (7 面)

鹿児島県護憲平和フォーラム情報 第 135 号 2022 年 7 月 1 日発行 (8 面)

鹿児島県護憲平和フォーラム情報 第 135 号 2022 年 7 月 1 日発行 (9 面)

鹿児島県護憲平和フォーラム情報 第 135 号 2022 年 7 月 1 日発行 (10.面)